

平成 30 年度 第 1 回会員研修

「英国メリデン版訪問家族支援プログラムを学ぶ

～せんだんホスピタル S-ACT の実践から～

《研修内容》

現在まで我が国の精神保健福祉を見ていくと「家族支援」という部分においては進んでいないのが現状です。一方でイギリスでは「Family Work」と呼ばれる家族支援技術が開発され実践されています。「Family Work」とは「訪問により本人も含めた家族一人ひとりの家族丸ごとを支援し、それぞれのリカバリーを目指す支援技術」です。この「Family Work」が現在日本でも注目されてきています。

今回はせんだんホスピタル S-ACT の実践とメリデン版訪問家族支援とはどのようなものなのか、今後どのように実践されていくのかについてお話しいたします。

今回は、医療に携わっている方、福祉に携わっている方、そして家族の方にとって、とても意義深い講演になると思います。会員でなくとも参加できる研修としましたので、所属機関や関係機関で興味のある方にはお声掛けしてください。たくさんの参加をお待ちしております！

《講師のご紹介》

梁田 英麿 先生

東北福祉大学せんだんホスピタル 包括型地域生活支援室(S-ACT)室長 精神保健福祉士
[講演の内容]

生活の場における支援では本人と同じように家族とも対話を重ね、関係作りをしていきます。ACT のサービスは集中的かつ包括的であることばかりが強調されがちですが、サービスの前提となる「関係作り」のあり方にも特色があると言われていています。支援者側の専門的な知識よりも、ご家族の歩みや文脈を優先しながら関わる ACT の家族支援についての内容になります。

小松 容子 先生

看護学修士(聖路加看護大学)、英国マンチェスター大学 The School of Nursing, Midwifery and Social work 博士課程単位取得満期退学。

宮城大学の講師で精神看護学をご専門に、メリデン版訪問家族支援をせんだんホスピタルの S-ACT で実践されつつ、メリデン版ファミリーワークのトレーナーとして日本におけるメリデン版行動療法的訪問家族支援の普及にもご尽力されています。

